

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月2日 NO.64

花ちゃん 「色づいていた葉っぱも落ち始めたね。」

オー君 「そうだね。虫もいなくなってきたぞ。」

花ちゃん・オー君 「つままないなー。つままないなー。」

モンタ博士 「そんなことはないよ。冬の夜空を見上げ
ごらん。すばらしいよ。」



花ちゃん 「冬の夜空・・・？星ですか。」

モンタ博士 「ピンポン。冬は星がきれいなんだ。」

オー君 「どうして冬は星がきれいなんですか。」

モンタ博士 「いろいろな理由があるけどね、まず、
冬は明るい星が多いのさ。」



花ちゃん 「星にも明るさのちがいがあるんですね。」

モンタ博士 「そうだよ。明るい星から順番（じゅんばん）に1等星、2等星、3等星とあ
るんだ。それで、東京では一年間に15個の1等星が見えるんだけど、冬は
その半分の7つも1等星が見えるので、それで明るくにぎやかなのさ。」

オー君 「なーるほど。そういうことですか。冬は1等星が多いということはわかった
けど、ほかの季節はどうなんですか。」

モンタ博士 「春は3つ、夏は4つ、秋は1つしか1等星が見えないんだよ。」

花ちゃん 「明るい星がにぎやかだから、冬は夜空がきれいなんですね。」

モンタ博士 「そうだね。それから、冬はシーイ
ングといって、星がはっきりと見
えるのさ。水蒸気（すいじょうき
）が少なく、よく乾燥（かんそう）
していて、風もあり、塵（ちり）
なども吹（ふ）き飛（と）んでし



もうからなんだ。」

花ちゃん 「なるほど。そうなんですか。」

モンタ博士 「さらに、日の入りが早く、日の出がおそいだろう。ということで、夜の時間が長いということも星がよく見える理由（りゆう）なんだよ。」

オー君 「夜が長いと星がよく見えるというのが、いまいちよく分からないのですが。」

モンタ博士 「それはね、日が暮（く）れても空には残照（ざんしょう）というものがあり、あたりが暗くなっても、実際にはかなり明るく、ほんとうに暗（くら）くなるのは真夜中（まよなか）だと言われているのさ。」

花ちゃん 「なるほど。そういうことですか。少し分かったような気がします。」

オー君 「ところで、モンタ博士。おいらのおうちの近（ちか）くは、街灯（がいとう）がたくさんあって、星があまりよく見えないんですが。」

モンタ博士 「そういう時にはね、手で光をさえぎるようにするといいんだよ。それだけで星の見え方がすごくちがうんだ。」

オー君 「なるほど。よく分かりました。これからは手で光をさえぎるようにします。」

花ちゃん 「モンタ博士。それでもあまりよく見えない時があったらどうするのですか。」

モンタ博士 「そうだね。そういう時には、お外に出て5～6分、暗（くら）さになれるといいんだよ。そうすると、またまたよく見えるよ。これはほんとうだよ。」

花ちゃん 「よく分かりました。早く夜にならないかな。夜が楽しみだな。」

モンタ博士 「それからね、夜の7時と9時と2回に分けて見ると、星の動きや地球が自転している様子もわかるから、なおさら楽しいと思うよ。さらに今週あたりは、月があまり明るくならないから、チャンスだ。このお話はまた今度ね。」



